

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0673000642		
法人名	特定非営利活動法人 大地		
事業所名	認知症高齢者グループホーム なごみ		
所在地	〒997-0167 山形県 鶴岡市 羽黒町 赤川 字 熊坂 47番3		
自己評価作成日	令和7年1月17日	開設年月日	平成17年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和7年2月13日	評価結果決定日	令和7年2月26日

# グループホームなごみ (月山通り)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地に近く、月山・鳥海山が一望できる自然豊かな農村地域に開設し20年。ご家族や地域の方々との関わりを大切に、地域密着型の質の高いサービス提供を目指しております。また、毎年6月には庄農の生徒さん達が育てた花の苗を、地域の皆さんの協力を得て植栽し、晩秋まで綺麗に咲き誇る花を眺めながら散歩するなど、自然に親しむ機会を多く持っており、毎月開催している『歌笑のつどい』ではご利用者様と職員が一体となり、歌・演奏・踊りなどを楽しんでおり、その様子を毎月発行している広報に載せ、ご家族に楽しみにしていただいている

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

通算150回を超える「歌笑のつどい」は毎回利用者の開会の挨拶から始まり職員のキーボード演奏で「なごみの歌」、季節の歌へと大合唱が続きます。昨年、民謡優勝者が入居して拍手喝采の発表の場を得て堂々と自慢ののどを披露し、各々特技やできることを継続して張り合いのある生活を送っています。看取り介護の利用者も行事や楽しみ事、食事の時はリビングで皆との時間を楽しみ、終の棲家として穏やかに暮らしています。開設20年、地域とは馴染みの事業所として協力関係を築き毎年住民の方々がお花壇や畑作りに来訪して、咲き誇る花や収穫を皆で楽しんでいます。また職員は充実した研修で介護の知識や技量を学び、更なる上をめざして資格取得に挑戦し、利用者・家族等の信頼に応えるべく質の高い介護に取り組んでいる事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者・職員・地域住民・職員の4視点から定めた目標を基本理念として玄関や事務室に掲げ、その理念を毎朝朝礼で唱和し、実践につなげられるよう努めている		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	感染症対策の観点から、未だ日常的な交流は難しい状況になっているが、役職員が地域の行事に参加したり、老人クラブの皆さんから花壇・畑づくり等で協力して頂いた。また、福祉体験学習の受け入れにより、地元の中学生との交流ができた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設以来、積極的に地域との交流を続けてきた中で、現在は認知症の人に対する理解も深まり、支援方法についてなどを相談できる場として地域の人たちから認識されているものと思っている		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族全員を運営推進会議の構成員とし、できるだけ詳しく事業報告や状況報告を行うよう努め、参加者から色々な情報を頂いたり忌憚のない意見を頂き、サービスの向上に努めている		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で行政関係者と意見交換したり、市主催の研修会に参加するなどし、市町村と連携していけるよう努めている		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	利用者様の尊厳を守ることを第一に考え、開設当初から玄関の施錠は行わず出入り自由となっている。また、「身体拘束適正化指針」を定め、適正化委員会(運営推進会議)や全体会議で報告・確認を行うと共に、内外の研修会等で身体拘束となる具体例や弊害を学び、身体拘束をしないで過ごせるよう工夫している	運営推進会議を活用して身体拘束適正化委員会を開催し、現状対象者はいないことを報告している。ユニット会議で事故の対策や利用者の状態を検討して問題点や課題を話し合い、転倒リスクの高い方の居室には人感チャイムを設置してすぐ駆けつけるなど、見守りを強化して安全に過ごせるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待に関する理解を深められるよう、内部研修で年2回虐待防止に関する研修(定義・具体例等)を行い、不適切ケアにつながると思われる方法で支援をしていた際は互いに声をかけ合うなどして、早期発見・防止に努めている	指針を定め、役職者会議で虐待行為がないことを確認している。研修では不適切な行為の事例を挙げながら再確認すると共に、年1回自己チェックする機会を設けてケアを振り返り、職員間のコミュニケーションを高め注意喚起してより良い介護を心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は研修の機会を得ることはできませんでしたが、学ぶ機会があれば積極的に参加するようにし、必要と思われる利用者様がいた際は活用するようにしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や解約時においては利用者様やご家族が不安を抱くことがないよう十分な説明と対応を行うよう心掛け、また、利用途中で改定等を行う場合は運営推進会議の場で提案し、理解・納得をいただいた上で実施している		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日常の会話や表情から読み取るようにし、ご家族からは洗濯物の受け渡し時や電話等で積極的に要望等をお聴きするようにしている。また、運営推進会議で出された意見等も反映させるようにしている	利用者との関わりを深め、思いや意向の把握に努めている。家族等との面会は感染対策をしながら交流ホールで再開され、運営推進会議に出席した際も意見・要望を聞き、会議の資料を不参加の家族にも配布して情報共有している。また毎月担当職員手書きの「なごみ便り」で日々の様子を伝え、写真満載の広報と共に喜ばれている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人代表・事務局長・管理者は毎月の全体会議に出席し、その中で職員の意見や提案を求めたり、また、年1回以上の職員との個別面談の際や、日常のコミュニケーションの中で意見や提案を聞いて、それを反映させている		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	育児休暇の取得・労働時間の短縮・給与の引き上げ等、職員が働きやすい職場環境・条件の整備に取り組んでいると共に、職員が向上心を持って働けるように、資格取得に向けた支援を行ったり、勤務状況の把握を行い、疲労やストレスにも気配りしていただいている	年1回以上法人事務局長との面談があり、自己目標達成に向けた取り組みを報告して評価や助言をもらい、やりがいに繋げている。生活環境に配慮した働きやすい職場環境や介護支援専門員・介護福祉士などの資格取得の支援体制を整え、向上心を持って働けるよう取り組んでいる。	
13	(5)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設当初から職員の学びの重要性を認識し、それぞれの立場や経験を踏まえながら、段階に応じた研修会への積極的な参加を奨励・支援しており、スキルアップしながら働ける環境づくりに取り組んでいただいている	職員は得意分野の継続と不得意分野の克服に向けて自己目標を立て進捗状況を定期的に評価して自身のレベルアップを図っている。年間計画に沿った内部研修や外部研修にも積極的に参加して、受講後は復命書で理解度を確認し、事業所全体の資質向上を図っている。	数多くの外部研修に適任者・希望者が参加しており、復命書や資料もあることから、以前のように伝達研修の場を設けたり、回覧したりして全職員が共有できる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム連絡協議会や庄内ブロック会が主催する研修に積極的に参加することで同業者との交流を図り、他事業所の取り組みの中で参考になることがあれば取り入れる等し、サービスの質の向上を目指している		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご本人と面会し、困っていることや不安に思っていること。また、生活歴や趣味、価値観や強み等をお聴きし、その内容を入居前に全職員が共有し、十分にコミュニケーションを図りながら、ご本人との信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のこれまでの介護状況を把握しながら十分に時間を割いて面談し、ご本人が安心して暮らすために必要な配慮等を話し合い、ご家族にも安心していただけるような関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の主訴に耳を傾け、今どんな支援が必要なのかを見極め、時には他のサービス利用の必要性も検討しながら丁寧に対応している		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護のサービス提供を意識し、ご本人の出来ることや強みを見極めて家事役割を担って頂くようにし、お互いが出来ることで協働する関係が築けるよう努めている	利用者ができること、好きなことを見極め、家事や余暇活動に力を発揮して達成感を味わいながら生活できるよう心掛けている。季節毎に行事を企画し、無い月は「歌笑のつどい」で職員の楽器演奏に合わせて節の歌を大合唱するなど、メリハリのある生活を共に楽しんでいる。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りで状況報告すると共に、洗濯の協力や必要物品の購入・持参等をお願いしながら、ご家族から気軽に訪問していただけるような雰囲気づくりに努め、ご本人とご家族の絆が途切れてしまわないよう配慮している		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により感染予防の観点から面会を制限していたが、5類への移行後はご家族等の面会や外出ができるように対応しており、これまでのかかりつけ医への通院介助や、行きつけの美容院への送迎等をご家族にお願いし、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう配慮している	条件が整えばドライブで馴染みの場所に出かけている。開設20年、法人代表が地域の一員として行事等に参加し、毎年住民の方が花壇や畑作りに来訪してくれるなど協力関係ができています。今後はコロナ前のように「歌笑のつどい」に家族等や地域の方も参加して交流できることを望んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や関係性について職員同士で話し合いを持ち、共用室で過ごされる際は座る位置等に配慮して、みんなが関わり合い支え合いながら、和やかに過ごせるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養への入所が決まったり、長期入院によりサービスが終了しても、ご本人やご家族に不利益が生じないよう、情報提供をしっかりと行ったり、必要に応じて相談に乗ったりできるよう心掛けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の希望や意向を言葉にすることが難しい利用者様が多いが、日々の関りの中で、ご本人の言動や表情等から思いや意向を汲み取るよう努めたり、入居時にできるだけそれまでの暮らし方や好み等の把握に努めるようにすることで、その人らしい暮らしが送れるように検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族からお聴きした情報や、以前利用していたサービス事業所からの情報等を把握し、入居後も、ご家族の訪問時やご本人との日常的な会話の中から積極的に把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りノートを確認しながら、日々の関りの中で、心身状態や有する力等の現状把握に努め、職員同士で話し合いながら、個々の現状に即した支援を心掛けている		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な会話の中でご本人からよく聞かれる言葉や様子、ご家族からの要望、主治医や看護師からの指示・アドバイス、そして、ユニット会議で出された職員の意見等を反映させながら介護計画を作成しており、3ヶ月毎に見直している。また、入院等で状況が変化した際はその都度見直している	入居前や入居後の関わりで得た情報と共に日々変化する状態を把握・共有し、ユニット会議で問題点や課題の解決に向けて話し合い、より良いサービスの提供に努めている。毎日の生活支援実施書で気づきに繋げ、安全で穏やかに暮らせるように介護計画を作成し、必要に応じて見直しも行っている。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送りノート・日常生活チェック表・介護日誌に一日の様子や出来事、また、気づきや変化を記入し、勤務前に必ずそれらを確認し、情報を確認してから勤務に就くようにしており、介護計画の見直し時にもそれらを活用している	個人毎のケース記録や日常生活チェック表は時系列に記録し、申し送りノートや介護日誌なども活用して職員間の情報共有に努め、実践に活かしている。記録の書き方の研修も行い、開示を求められることも想定して、正確にありのまま、尊厳をもって記すことを心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人やご家族の状況やニーズに応じて、ご家族に相談しながら必要物品を購入して頂いたり、通院時の移送や付き添いのサービスを提供する等し、柔軟な支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署の協力を得て、AEDの操作方法等の講義や避難訓練を実施したり、地域の民生児童委員・区長・老人クラブの会長等のマンパワーとの協力関係を大切にしながら、利用者様が安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医からは月2回の訪問診療や体調不良・急変時の相談にのって頂いており、ご本人の状況やご家族の意向で、かかりつけ医以外の医療機関を受診する場合でも、状況報告書を持参する等して各医療機関と連携を図っている		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理を徹底し、利用者様の状態変化や気づきを適切に医療職に伝え指示を受けることで、適切な処置・受診が受けられるよう支援している		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院する際は必ず職員が付き添い、これまでの経過や基本情報を口頭と書面にて病院関係者に伝えると共に、ご家族から病状を聞くなどして、病院関係者・ご家族・主治医と連携しながら、治療の進捗状況や早期退院に向けての相談・情報交換を行っている	主治医の判断により紹介状を持って入院となるケースがほとんどで、職員が付き添い医療機関に状態を説明して連携を図っている。家族等からの情報や入院先の看護師からその後の病状について丁寧な説明があり、1ヶ月以上の治療継続となる場合を除いて、事業所で引き続き支援できる体制を整え迎え入れている。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針を作成しており、入居時にご家族に十分説明を行っている。また、事業所で出来ることについてもご家族にお伝えし、終末期における意向も確認している。そして、実際に重度化した場合、再度、ご家族の意向を確認した上で、主治医と相談しながらチームワークで終末期ケアの支援に取り組んでいる	入居時に指針を説明すると共に、食事が摂れなくなってきたなど重度化した際には改めて「看取り介護に関する指針」で家族等に意向を確認している。終末期対応で悩んだ時は主治医との面談を設定し、看取りを行う際にはユニット会議等でケアの統一を図り、自然な形でその人らしい最期を迎えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルを作成常備し、全職員が確認できるようになっており、実践力を身に付ける為、消防署の協力を得て、定期的に心肺蘇生法や緊急時の対応についての研修・訓練を実施している			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回、火災や災害を想定した緊急駆けつけ・通報・避難・初期消火訓練等を定期的実施しており、今年度は7月に机上での行動シミュレーション研修と11月に初期消火・地震発生時の対応・地震に伴う火災発生への対応訓練を実施した。また、地域との協力体制については運営推進会議の中で相互協力について確認している	震度6の地震と火災を想定した訓練では、頭巾を使用し安全な場所で地震が収まるのを待つ・火事ぶれ・誘導・水消火器訓練等を行い、終了後には明らかになった課題について対策を検討している。また防災対策についてへの外部研修参加や、BCP(事業継続計画)に基づき豪雨災害時の机上訓練などを実施し有事に備えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないようなケアの実現に向け、入居前に得た情報やセンター方式を用いて、これまでの生活歴を詳細に把握したり、コンプライアンス・不適切ケア等の研修を行ったりして、声かけや接遇には十分留意しながら日常業務に当たっている	職員は入浴介助や認知症についての研修などで尊厳を守るケアや羞恥心への配慮等を学び実践している。トイレ誘導時や排泄に関する事項はプライバシーに配慮して支援し、職員同士で気になる言動があれば注意し合って意識を高め合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様になるべく自己決定できるよう、分かり易い言葉や説明を心掛け、職員に何でも頼めるような信頼関係の構築や和やかな雰囲気づくりに努めている			
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関りの中で一人ひとりのペースを把握し、そのペースやその日の心身の状況に合わせてながら、職員の都合に合わせてことなく、ご本人の希望に沿った過ごし方が出来るように心掛けている	入居前の情報や日々の気づきをセンター方式で把握し、起床や食事の時間など利用者それぞれの習慣や体調に合わせて支援している。食器洗いや歌の披露など利用者の個々の力を引き出し、やりがいや自信を持って笑顔で過ごせるようサポートしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に出張床屋に散髪してもらい、男性利用者様には毎日髭剃りの声かけや介助を行っている。また、ご家族が準備して下さった衣類を代わる代わる着用してもらい、おしゃれができるように支援し、外出時はおしゃれをして出掛けられるよう心配りしている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のすぐ傍で調理しているので、野菜を切る音を聞いたり、美味しそうな匂いを嗅ぎながら食事を楽しみにして下さっており、肉を魚に変える等、好みの配慮も行っている。また、後片付け等、できる範囲で手伝っていただいている	委託業者から旬の食材が届けられ、畑で採れた新鮮な野菜も使い、リビングにあるキッチンで調理した温かい食事を提供している。鰯汁や納豆汁などの郷土料理や季節行事のメニューでは「美味しい」と会話も弾み喜ばれている。食前に歌や口腔体操を行い、食事形態や嗜好にも個々に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューを基に調理し、一日の必要量が確保できるよう、食事・水分摂取量を毎回記録し情報を共有している。また、一人ひとりの状態に合わせ、食事時間をずらしたり、食事形態を工夫したりしている			
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年に一度の協力歯科医の研修で、全職員が口腔ケアの重要性を認識しており、毎食後に一人ひとりの状態に合わせてながら声かけや介助を行い、口腔ケアを徹底している	職員は毎年歯科医の研修を受け、口腔ケアの重要性について学び、毎食後のケアを徹底して行っている。自立支援を心掛け、なるべく歯磨きや義歯の手入れを自分で行えるように支援している。介助が必要な方には職員がサポートし、嫌がる方にも工夫を凝らして衛生保持に努めている。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の排泄状況を排泄チェック表に記入することで、一人ひとりの排泄パターンを把握し、それを基に職員間で確認しながら、さりげなく声かけ・誘導を行ったり、尿・便意のサインを見落とさないよう気配りしながら、できるだけ排泄の失敗を少なくするように努めている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄サインを捉えて声掛けやトイレ誘導を行っている。職員は自立支援を心掛けできる限りトイレでの排泄を基本に、ユニット会議で話し合い統一したケアを実践して、家族等にも来訪時や「なごみ便り」で報告している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は身体面のみならず精神面にも影響を及ぼすという認識の下、排便状況を把握し、適切なコントロールができるよう、水分摂取や散歩・軽体操等を促したり、必要に応じては下剤の内服について主治医に相談するなどしている			
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の勤務体制や公平性を保つ為、曜日や時間帯は概ね固定している現状ではあるが、ご本人の希望やその日の身体状況に合わせてながら、爽快感が得られるよう配慮した支援に努めている			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や身体状況、また、その時々希望により、個々の居室でゆっくり休息して頂いている。また、安眠できるように、日中は軽体操等で体を動かして頂く等の活性化を図り、なかなか寝付けない方については眠くなるまで傍について話しを傾聴する等している			
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬の効能書きを綴り、臨時薬が処方されたり用量の変更があった際は申し送りノートとケース記録に記載して職員間で情報共有すると共に、症状の変化については見逃さずにかかりつけ医に定時・随時に報告している。また、服薬時は必ず飲み込み確認を行い誤薬防止に努めている	個別の配薬・前日の準備・当日に確認する職員をそれぞれ別にしてチェックし、服薬時には利用者に名前を提示して飲み込むまで確認し誤薬防止に努めている。薬の変更時は申し送りなどで周知し副作用などを観察して、准看護師の資格を持つ管理者が職員に危険性や重要性を常に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味の情報を基に、その方が持っている力を引き出せるような役割を考え、その役割を果たすことで生活に張りを持って頂けるよう配慮している。また、塗り絵・パズル・歌・軽体操・散歩等、それぞれが楽しんで行えるようなプログラムを提供し気分転換して頂いている		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の花見ドライブには全員参加することができたが、特定健診(6月～9月)の為の通院対応・天候不順・新型コロナの感染等の関係で、外出支援や日常的な外出支援は出来なかった。しかし、天気が良く暖かい日は玄関先で日向ぼっこをしたり、敷地内を散歩したりして外気に触れていただくことは出来た。また、ご家族の協力により、ご本人の希望に従い、希望通りに外出している入居者様もおられる		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物があればご家族に連絡し購入して頂くか、ホームの立て替え払いを基本としているが、ご本人の能力や希望に応じ、ご家族と相談の上、金銭の所持を認め、適切に管理できるよう見守っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に応え、いつでも電話で話せるように援助している。また、受け取った手紙やハガキと一緒に読んで聞かせたり部屋に飾るなどして、ご家族等との交流が図れるように支援している。また、携帯電話を持参しており、自由にご家族と連絡を取り合っている入居者様もおられる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の採光等を含め、利用者様に配慮した造りになっており、ホーム内を適温に調節するよう心掛け、施錠はせずに開放感のある共用空間となっている。また、食事作りの匂いが生活感を漂わせ、ホールや廊下には季節行事を楽しんだ写真を掲示したり、その時節の花を飾ったりして、季節を感じながら居心地よく過ごして頂けるよう工夫している	窓から光が差し込む明るいリビングには季節を感じる物や写真が掲示され、職員が生けた花が常に飾られ利用者の癒しとなっている。席の配置についてはユニット会議等で話し合い特に気を配っている。毎日皆でコーヒーを飲み、歌を唄い和やかな雰囲気、重度の利用者もみんなと共に過ごせる時間を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファが設置してあり、独りでゆっくり寛いで頂けるようになっている。また、利用者様同士の関係性を考慮して席を決め、ユニット全体が和やかにコミュニケーションが図れるように居場所を工夫しており、居室で趣味に没頭したり、気の合う利用者様同士で協力してパズルをする等して、それぞれ思い思いに過ごしておられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物や馴染みの物を居室に持ち込んで頂き、壁には家族写真を貼ったりして、在宅時と同じように居心地よく安心して過ごして頂けるよう配慮している	寝具とベッドが備え付けてあり、利用者が使い慣れた馴染みの物を自由に持ち込めるようにしている。掃除やリネン交換を行い清潔に保ち、転倒防止に配慮し、動線上に物を置かない、夜間は小さな電灯を付けるなど環境を整え、居心地よく安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりの設置・福祉用品の活用等で安全に配慮すると共に、居室の入り口は名前を書いたり飾りを付けたりして自室と分かるようにし、また、トイレの場所を表示する等して、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している		